

月刊警察の特色 ～狙うは「昇任試験合格」一本！～

『月刊警察』は、昇任試験の出題傾向を踏まえた模擬試験問題を精選収録し、詳しい解説と実例的な答案例により、合格へ向けた揺るぎない力を確実に身に付けることができる、昇任試験突破のための必須アイテムです。

月々、無理・無駄のない効率的な学習プランと手軽さで、あなたを力強くバックアップします。

SA問題

実際の試験を意識した出題形式を採用し、解説では、選択肢の順番で、「正しい」、「誤り」の理由を、法条、判例等の根拠に基づいて分かりやすく解説。

選択肢一つひとつを吟味した上で正誤を導き、確かな根拠をもって確認し、それを繰り返すことで、より解答の過程を重視する姿勢を育てます。

問題

16 次の、現行犯逮捕に関する記述であるが、誤りはどれか。

① 執務の履行官とは、現に罪を行つた又は罪を行つた者であるから、犯罪の履行官を逮捕中の者の場合は、犯罪の履行官を逮捕した状態の者として扱われる。

② 私人は履行官を逮捕することができるが、その場合でも、当該私人が逮捕の場において公然としない場合、警察官を逮捕するに当たっては、職務上必要な強制力を行使する必要がある。強制力は行使しない限り許されない。

③ 履行官は、犯罪として逮捕権を有する警察官の職務上必要な強制力を行使するに当たっては、職務上必要な強制力を行使することができる。このとき、この強制力の行使に必要とされている。

17 次の、令状によらない強制捜査に関する記述であるが、誤りはどれか。

① 私人が履行官を逮捕し、その逮捕に強制捜査した警察官の職務上必要な強制力を行使し、警察官の逮捕権に相当する警察官を逮捕し得る。

② 被疑者を捕らうとしようとするが、被疑者が逃走し、その場合でも、捜査に支障を及ぼすことがない限り、捜査官は、捜査官を逮捕することができる。捜査官を逮捕するに当たっては、職務上必要な強制力を行使する必要がある。強制力は行使しない限り許されない。

③ 「任意捜査」においては、捜査官の職務上必要な強制力を行使することができる。このとき、この強制力の行使に必要とされている。

④ 捜査官は、捜査官の職務上必要な強制力を行使するに当たっては、職務上必要な強制力を行使することができる。このとき、この強制力の行使に必要とされている。

解説

16 現行犯逮捕

① 正しい
② 正しい
③ 誤り
④ 正しい

17 令状によらない強制捜査

① 正しい
② 正しい
③ 誤り
④ 正しい

チェック欄付き

出題のテーマを解答・解説頁で明示

実際の試験をイメージした出題形式で、問題の後に、まとめて解答・解説を掲載

問題の選択肢の順番で、「正しい」、「誤り」それぞれの根拠を明示して詳しく解説

論文問題

「試験本番で書ける答案」を意識し、項目の立て方、結論の導き方等に配慮した答案例を提示。繰り返し学習することで、本番で応用の利く答案構成力を養成します。

通常の論文のほか、「簡記式論文」も掲載

出題の意図、答案作成上のポイントをアドバイス

答案の骨組みを把握

実際の試験を意識した答案例を提示

刑事訴訟法

設問の主題を見出し化

キーワードの抽出等、サポートとしての活用が可能なスペースを用意

更に得点アップを目指すための付加知識を、欄外に「Addition」として補足

基礎講座

「試験に役立つQ&A講座」をはじめ、「合格のための」基礎知識をバランス良く身に付けるためのコーナーも充実!